

その他「活発でない理由」として、次のようなことが挙げられた。

- 時間が限られ、話し合いを深めるゆとりがない
- 授業研究会の回数が少ない
- 計画では、研究会が位置付けられているが、実際に行われていない
- 研修意欲が足りない

それに対して「活発」と答えられた理由には、次のような項目が挙げられた。

- 計画的に授業研究会が実施されている
- 積極的な意見交換がなされている
- 研究の視点をもとに話し合いが進められている
- 適切な指導・助言がいただける
- 指導力を高めようと、研修意欲が高い先生が多い

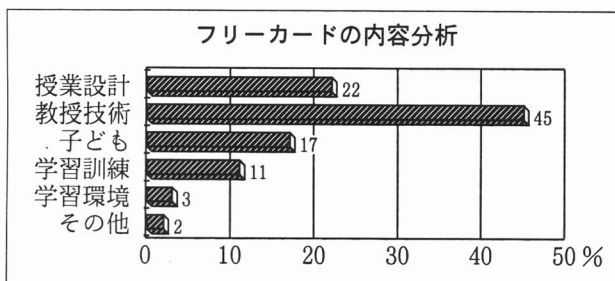
以上のことから授業研究会が活発な理由とそうでない理由とは、相対することが分かる。そこで、「形式的な反省に終わっている」「発言が少ない」「話の焦点が定まらない」等の問題点を解決し、授業研究会を活発にするためには、フリーカード法を取り入れれば良いのではないかと考えた。

## 2 フリーカード法活用の有効性の検証

### (1) フリーカードの内容分析の調査

小学校（27人） 中学校（43人） 高等学校（2人）の計72人の教員を対象に、カードに記入された内容を把握するため、実際にフリーカードを用いて授業研究会を行い、カードを分析した。

その結果、カードの記述内容は次のグラフのようになった。



上記の結果と前掲の教師のニーズとを比較してみると、学びたいと思っている内容がフリーカードに数多く書かれていることが分かる。つまり、授業を見る視点と教員が学びたいことが一致している。このことからフリーカードが教員のニーズを解決していく上で有効な手段であると考えられる。

### (2) メリットとデメリットの調査

フリーカード法の効果を捉えるため、小学校（41人）、中学校（46人）、高等学校（5人）の計92人の教員を対象に、①授業者の立場②観察者の立場でのメリット、デメリットを自由記述形式でアンケート調査を行った。

その結果は、次の表のとおりである。

#### ① 授業者の立場で

##### 【メリット】

指摘項目	人	%
• 様々な観点から率直な意見が得られ、改善点が明確になる	44	48
• 自分の意識していない授業の問題点が見える	16	17
• 授業全体の特徴をつかむことができる	15	16
• 授業細部まで目を配ってもらえる	8	9
• 話し合いによる検討より情報量が多い	6	7
• その他	3	3

##### 【デメリット】

指摘項目	人	%
• 特になし（考えられない）	36	39
• カード内容の受け止め方について		
① 否定的な意見を受け止めるのはつらいときもある	16	17
② 率直な意見が怖い	8	9
③ 的を射ないカードの処理の仕方	3	3
• 観察者の手の動きが気になる	9	10
• 観察してほしい点がぼやける	8	9
• 様々な項目が出されるため、ポイントが絞りにくい	5	5
• その他	7	8

メリットとしては、多くの教員が自分の授業を反省したり、課題に気付いたりするなど、よりよい授